



国立研究開発法人
国立長寿医療研究センター
National Center for Geriatrics and Gerontology

ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティが 認知症の人と地域住民の社会参加向上と スティグマ軽減、ウェルビーイング向上に もたらす効果検証

国立長寿医療研究センター 研究所

老年社会科学研究部

斎藤 民

NCGG-Universal Community (NCGG-UniCo)

基本コンセプト

すべての人に社会参加とウェルビーイングを

認知症やさまざまな障害があっても
社会生活や経済生活を継続、認知症スティグマ軽減と
ウェルビーイングを目指す環境への介入と検証

- 坂を緩やかにする0次予防
- 暮らすだけで自然と社会参加

社会参加

ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティ
NCGG-UniCo

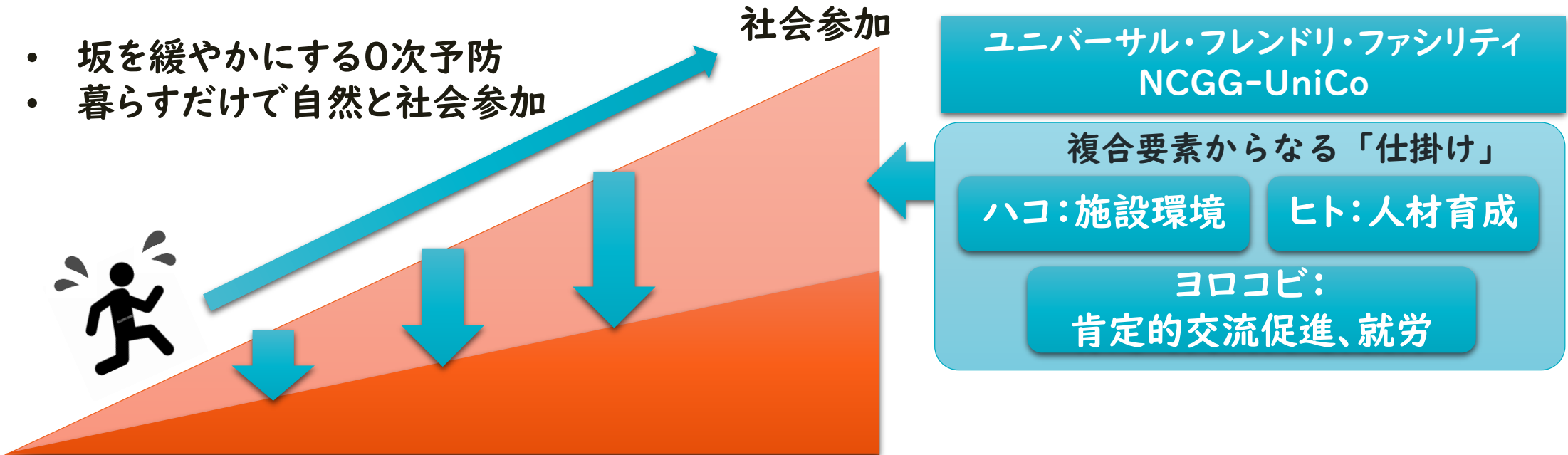
複合要素からなる「仕掛け」

ハコ：施設環境

ヒト：人材育成

ヨロコビ：

肯定的交流促進、就労



UniCo施設に必須の3要素と位置づけ

- プログラム開発
- 就労・社会参加システム構築

- 認知症サポーター養成
- 人権啓発、等

- 認知症等バリアフリー技術開発

肯定的交流・
就労・役割
(ヨロコビ)

人的サービス
(ヒト)

物理的環境 (ハコ・モノ)

生きがいづくり
Well-being (WB) 向上
認知症スティグマ軽減

空間・情報アクセス改善
失敗・困難経験の軽減
行動変容

ロードマップ

- 表示などできる
ところから着手
- 連携体制構築
- 開発準備

UniCo施設
試作

現在 (2023-2024)

- 複数の共同開発
- 上記を盛り込み
UniCo施設効果検証
- 認証基準策定

UniCo施設検証

モデル施設検証
複数の共同研究実施 (2025-2027)

多地域での
実装性検証

地域・場面に
応じた応用版開発
継続性等の検証 (2028-)

認証制度化

認証施設を優遇する
仕組みづくり

2023-24研究項目、スケジュールと進捗状況

タスク	令和5年度				令和6年度				達成度 (2024.2)	理由
	1期	2期	3期	4期	1期	2期	3期	4期		
1. コンソーシアム構築	コンソーシアム準備			キックオフ会議、プレコンソーシアム開催 ：情報収集と意見交換				○	2023.12キックオフ実施 2024.3プレコンソ開始決定	
2. 開発準備	資料収集・整理		ネットワーキング・ ヒアリング実施						○	資料収集、共用品推進機構、 企業、研究者ヒアリング遂行
3. 認知症者外出行動同定									○	調査完了、速報集計中
認知症者の外出行動同定			調査実施、データ整理、 速報集計準備		データ解析、成果報告、 論文投稿					
4. 社会生活機能尺度開発									○×	・概念整理中 ・2024再開、完了予定
概念整理	■									
尺度項目作成、調査準備 調査実施、解析、報告			■		■		■			
5. プロトタイプ開発									○×	・開発案策定中 ・ハコ：表示実験、トイレ検証、 ヨロコビ：肯定的交流プログラム 開発、就労支援フロー策定 ・実環境でのニーズ把握遂行 ・院内道迷い調査 ・まち歩き調査 ・2024.2介入施設交渉中 (2024.3施設内定)
コンセプト設計	■		■							
実環境でのニーズ把握			院内調査、まち歩き調査		■					
詳細設計・試作			■		ハコ・ヨロコビ介入 試作					
介入施設選定			■							
倫理審査、介入計画策定 パイロット介入実施					■					
ユーザビリティ、実現可能性評価							■			
6. プロジェクト小括									-	-

紫：当初計画から遅延、修正スケジュール

1. コンソーシアム構築

大府市、東浦町との協力体制構築

コンソーシアム開催準備会議の実施（6月30日、9月22日）

コンソーシアムキックオフ会議開催（12月22日）

協力：大府市、東浦町、名古屋市認知症本人の会、認知症研究・研修大府センター若年性認知症本人の会、東浦町介護者の会

参加企業：14社

第1回プレコンソーシアム会議開催決定（3月22日）

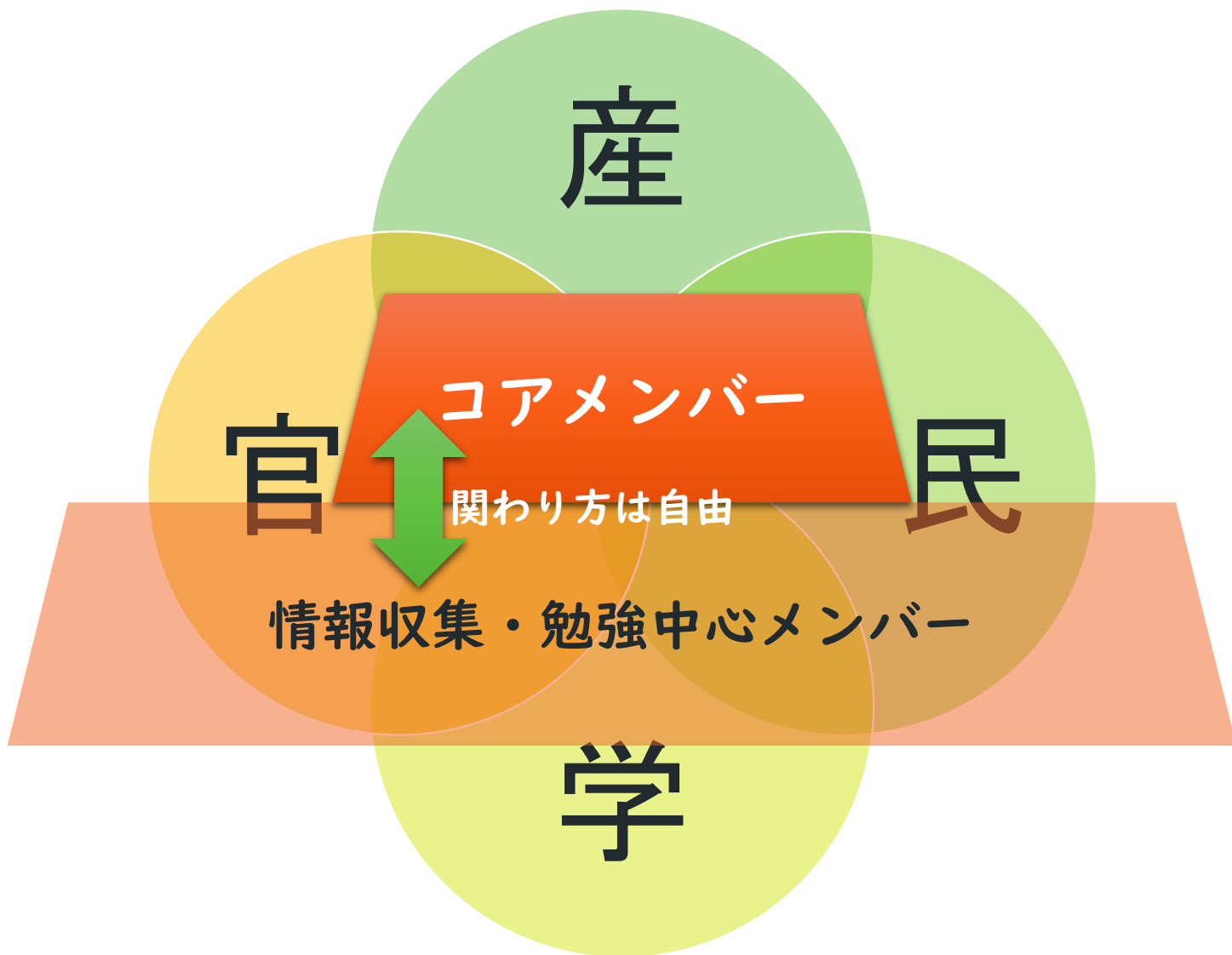
UniCo進捗報告

経済産業省担当者ご講演

認知症のご本人・家族と企業の共同開発事例紹介

産官学民グループディスカッション

UniCoプレコンソーシアム (2023-2024)



- 認知症に優しい施設づくりの意見交換、勉強会や共同開発準備を進める場
- コアメンバーは2025から共同開発へ

ロゴマーク作成



• ロゴに込めた思い

- 多色使いは多様な立場の人が協働するイメージ
- 誰にも身近なカタカナ表記
- ユニバーサルカラー、希望をイメージする色合い

• シブヤフォントに作成を依頼

- シブヤフォント：障害のある人とアーティストや学生が協働して制作を行い、売り上げを福祉作業所に還元する活動を実施

2. 開発準備

• 資料収集

- 認知症にやさしいデザイン（英国スターリング大学）他
- エビデンスの確認

• 企業、研究者へのヒアリング（ネットワーキング）

- 認知症にやさしいトイレ開発
 - 日本工業大学野口祐子教授、設計事務所ゴンドラ
 - 株式会社LIXIL
- 共用品推進機構
- 経済産業省ヘルスケア産業課
- 愛知県高齢福祉課（認知症の人にやさしい企業連携推進事業）
- 三菱UFJ銀行、同リサーチコンサルティング、株式会社スギ薬局、株式会社アイム、JAあぐりタウンげんきの郷、TOTO株式会社、その他企業の方々
- マイヤスーパー（2024.3訪問）

3. 外出行動の同定

・ 認知症になると、どこに行けなくなる？どこに通い続けたい？

- ・ 同地域の要介護認定非該当高齢者と認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱa以上高齢者を比較
- ・ 2024.2現在、調査完了、追加入力中

	一般高齢者調査	軽度要介護者調査
方法	郵送による自記式質問紙調査	
時期	2023/12/1～2024/1/17	2023/11/1～12/28
対象者	2023年11月1日時点で、要介護認定を受けたことのない、大府市の65歳以上高齢者16,958人から無作為に抽出された1,000人	2022年8月～2023年7月に、新規に要支援1から要介護1に認定を受けた、大府市・東浦町・知多市・東海市の65歳以上高齢者計1,479人全数
倫理的配慮	国立長寿医療研究センター倫理・利益相反委員会の承認を受け実施 (承認番号:1740, 1744)	

4. プロトタイプ開発

・コンセプト設計

・詳細設計・試作

- ・ 具体案を得るため、実環境での認知症の人や高齢者のニーズ把握を実施
 - ・ 院内道迷い調査（2023.11実施）
 - ・ 街歩き調査（イオンモール東浦、げんきの郷）：準備完了、2024.3開始予定

・プロトタイプ作成

- ・ ハコ（NCGG担当）
 - ・ 屋内外での「道迷い」の抑制（わかりやすさ）に着目
 - ・ 施設種類によらず求められる表示方法を提案
 - ・ 認知症に優しいトイレの導入（フィールド調整がつく場合）
- ・ ヨロコビ（大府センター担当）
 - ・ 認知症の人が参加しやすい肯定的交流プログラム開発とパイロットRCTによる検証
 - ・ 若年性認知症の人の就労支援フローの策定
- ・ フィールドでの予備導入とユーザビリティ評価を予定

院内道迷い調査

- 長寿医療研究センター職員へのアンケート実施
(2023.11)
 - 回収率26.3%
- 対応頻度、頻出場所等を特定
- 道迷い原因を検証中
 - 建物構造、表示方法の課題

遅れている研究項目の理由と対応策

・ 社会生活機能尺度開発

- ・ 理由：プロト開発とコンソーシアム構築に注力したため
- ・ 対応：非常勤研究員の採用等、スタッフ増員を検討
- ・ 見通し：研究チームは尺度開発のノウハウを有し、2024年度に完了可能

・ プロトタイプ検討

- ・ 理由：ターゲットとする外出先／介入ドメインの検討に時間を要したため
- ・ 対応：2024年度研究体制を変更、NCGGと大府センターが各側面を検証
- ・ 見通し：開発方針の大枠は決定済。2024年度に完了可能
- ・ その他：未着手ドメイン（移動等）の抽出・開発準備はプレコンソで実施、Bステージにて開発・検証